



もうひとつの目で秋田を！

先日までの暑さが一気に変わり、朝夕は肌寒さが感じられるようになりました。

秋田は四季の区切りが極めて明確で、春は清々しい空気の中での新緑と咲き誇る桜、夏は海に山に青春を謳歌できる暑さ、秋は山々が燃える紅葉と多様な味覚、冬は命の水の源、真っ白な雪とウィンタースポーツに幻想的な冬祭り、長く住んでいる秋田県人には当たり前前で意識することも少ないのではないかと思います。

しかし、関東関西などから秋田に転勤して来た他県生まれの会社員などの方から、一度秋田に赴任したら異動したくなくなるという声を聞くことがあります。

秋田に対するお世辞も少しはあるでしょうが、本音のところも多いような気がします。

職業柄、他県から秋田に赴任して来ている首都圏等の会社や団体の方や、秋田に事業所があり秋田を訪れる機会が多い方にお会いする機会が多くあります。

その方々の中には、「東京の生活に比べたら秋田は天国です。食べ物は安くて美味しい、飲みに行っても帰りは困らない、ゴルフやスキーも安く楽しめ、温泉巡りや各地の祭り見物など年中生活に飽きることはないです。昇進しなくてもいいから秋田支店で定年まで置いてもらうことにしました。」「もう秋田に10年近く居るので、女房も東京には帰りたくない、定年後慣れた秋田に住もうと言ってます。」「僕は大手企業の秋田支店に勤務していたけど、趣味のゴルフと釣りを極めたいと思い、定年後秋田人になりました。」等々、何百人とは言いませんが、少なからずそういう方はおります。

また、ある誘致企業の社長さんは、秋田工場を頻繁に訪れるそうです。

社員の方曰く、「特別用事がなくても、ちょくちょく秋田工場に顔を出します。お酒がお好きな社長さんなので、秋田の美味しいお酒を飲みに来られるのでは、夕方工場に寄って報告を受けると直ぐお気に入りのお店に直行するようですか?」、もちろん社長として秋田工場のことを見届けするためでしょうが、秋田県人としては嬉しい限りです。

若い時分は、刺激や可能性という視点から、大都会を憧れるのは自然なことでしょうし、自分の才能を開花させたい、そのためには狭い地域社会ではなく日本の中心東京で、という気持ちも当然に理解すべきです。

一方で、人間にも帰巢本能のようなものや、一度住んで気に入った所で過ごしたいという気持ちもあるのではないかと思います。

我が儘で堪え性がない私、大学卒業後東京の大企業に就職しましたが、満員電車での通勤が嫌で直ぐに会社を辞め秋田に戻りました。

70歳を越えた今、課題は多くても四季折々の秋田で暮らせて悔いはありません。